

## 慶応大学法科大学院ステートメント

- ・多様な人々の間に起こる紛争を解決するためには
- ・部活動、スポーツを通じた人との関わり
- ・ゼミにおける議論

### 1.

現代社会において人々の関わり方は過去よりもはるかに多様性を増し、その関わり方は日々進化している。現代では過去には想像も出来なかったような職種が生まれたり、それに伴い社会において『社会人』として関わる人間の年齢の幅も格段に広がりを見せている。また、人工知能、いわゆる AI の進化に伴い、未来においては人と AI との間に紛争が起きるかもしれないところまで時代は進んでいる。

私はこれらの問題について常日頃から『人間の思考』というものが絶対に欠かせないものであると考えてきた。そして、その『思考』が誰にでも納得のいくものになるためには、その根拠に規範たる法が必要であると考えた。

この考えをもって将来において人々の間に入って活動していくために、私は以下のような活動をしてきた。

まず、法の考え方が人によって違うのではないかと思い、あえて自分が納得できないような思考方法に基づく基本書などを読み、いかにして法が人々に捉えられているのか、ということ学んだ。

また、この法の考え方の差異を顕著に学べたのは二年、三年における演習授業内でのほかの学生の意見である。学者の意見などとは違い、素直な価値判断に基づいた意見が多く、まさしく人々がどのように法をとらえているのかということを感じた。この演習の際には積極的に発言、質問を行うようにして、より一層意見を取り入れられるようにした結果、成績もそれに応じた優良なものを得ることが出来た。

### 2.

上述のような取り組みにより法の考え方の多様性を学ぶことに努めたが、やはり人々の間に起こる紛争の解決を図るためには、より多くの人々と関わりを持ち、出来る限り多くのコミュニティを形成していくことが必要であると考えた。

そこで、小中高大と続けてきた野球を通じてさらに多くの人々と関わりを持つことで、そのコミュニティからさらに派生して、多くの職種、幅広い年齢層の人たちの考え方や、それらへの対応を学ぶことが出来た。

### 3.

もっとも、様々な『思考』に触れるだけでは、将来における実務的な法曹活動に資さないと考え、三年次より議論の活発な刑法ゼミに所属し、『思考』を活用し、相手に対していかに自分の思考過程を伝え、共有できるかということについて学んできた。また、法の議論の

場においては、ただ思考過程が出来ているというだけでは伝わらないことから、法体系の理解を深めること、すなわち、より根本的なことから検討して、相手に伝えることが必要であるということをリーガルマインドのより一層の形成と共に学べたように感じている。

よって、これからの私の考える将来のビジョンに向けては、OB・OGを含めた多種多様な人間関係を必要とし、なおかつ既存の視点にとらわれず、進む時代に合わせていける先進性が必要であると考えている。

以上より、私は慶応義塾法科大学院で学ぶことに意義を感じ、貴院への進学を希望している。